

(8) 学校実習・ボランティア支援室**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

学校実習・ボランティア支援室は、教育実習、学校実習及び学生の各種ボランティア活動を円滑に実施するための支援・危機管理等を行うことを目的として設置されている。

イ 組織の構成及び構成員等

学校実習・ボランティア支援室は、室長、特任教員、兼務教員、学長が指名した附属学校副校長、教育実習委員会委員長、学校実習委員会委員長、その他必要な職員で組織し、計 21 人で構成されている。

② 運営・活動の状況**ア 委員会等の開催状況**

令和 2 年度においては、以下のとおり 2 回開催した。

- ・ 第 1 回 令和 2 年 4 月 7 日（火）
- ・ 第 2 回 令和 3 年 3 月 15 日（月）

イ 審議された主な事項

令和 2 年度の主な審議事項は、「ボランティア体験」、「学校ボランティア A (学校支援体験)」及び「学校ボランティア B (学校支援体験)」に係る令和 2 年度実施計画並びにそれら授業の履修状況等についてである。

ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアの開始時期が大幅に遅れ、ボランティアの実施可能期間が短期間となったが、従来の対面での説明会や指導に代えて、メールやオンライン（Google Classroom）の活用に取り組むなどの対策を講じた。その結果、ボランティア関連の授業科目では、学生は限られた時間に苦慮しながらも、早い段階で既定のボランティア時数に達したことから、高い意識をもってボランティアに取り組んだことが窺えた。

③ 優れた点及び今後の課題等

「学校ボランティア A」では、新型コロナウイルス感染症の影響で、授業の日程とボランティアの開始時について何度も修正を図ったが、メールやオンライン（Google Classroom）を適宜活用したり、個別相談を行うことにより、ボランティアの実施可能期間が短期間だったにも関わらず、学生の参加意欲は高く、ほとんどの学生が 12 月までに規定のボランティア時数に達することができ、学生の参加数も増加した。また、受入小中学校へ直接出向き、実務担当者に加えて校長にも参加をいただき打合せ会を行うことで、大学の姿勢や方針を共通理解いただいたり、学生のボランティアでの様子を教えていただいたりし、各校と大学との協力態勢が強まった。

「学校ボランティア B」では、教育実地研究Ⅲ（初等教育実習）の授業に学校ボランティア B の説明を行う時間を設定し、学生への周知を図った。さらにコロナ禍で教育実習が学内プログラムにより実施されたことに伴い、学校現場での実習が大幅に短縮されたことが、学生の意欲の向上に影響を与えたものと推察され、履修者が増加した。

「ボランティア体験」では、年々履修者が減少していることから、「学校ボランティア A」の授業内で「ボランティア体験」についての意識調査のアンケートを実施した。また新型コロナウイルス感染症により受入機関から直接ガイダンスを実施できなかったため、授業内でボランティア活動を行ったり、インターネットを適

宜利用して、情報共有をスムーズに行ったりして、学生のボランティア意識を高めた。さらに活動開始時期の遅れと活動数が減少したため、活動期間を延長した。

被災地ボランティアでは、直接被災地に出向くボランティアは行うことができなかったが、今年度も豪雨災害に対する募金活動を行い、義援金は合計 27,152 円に達した。また被災地に行けないことで、学内に目を向けてのボランティア活動である環境整備作業を行った。大学周辺の清掃活動のボランティアを募り、延べ 36 人が参加した。

今後は、学生の積極的な参加を促進するため、オンライン（classroom）等を活用し、ボランティアの募集案内等を充実していくとともに、学校現場の教員に各種ボランティアの活動内容について理解を深めていただくため、チラシ等を用いて広報活動を行っていく必要がある。